

年 組 名前:

# 吉田口の遊歩道 整備へ

## 富士山関係者 麓からの登山魅力向上

遊歩道を歩きながら意見を交わす参加者＝富士吉田市内



富士山に関わる富士吉田市内外の産官学の関係者が、富士山吉田口遊歩道の整備に乗り出した。現状の遊歩道は利用者が少ないことから、魅力を高めることで麓からの富士登山者を増やしたい考えた。実際に遊歩道を歩き、具体的な整備計画について意見を交わすなどしている。関係者は「地域住民や専門家の意見を聞き、整備の在り方について考えていきたい」と話している。

（小林諒一）

遊歩道は北口本宮富士浅間神社南から富士山1合目手前の「馬返し」までの約7・4キロ。登山道と並行する道路で、舗装はされていない。市教委歴史文化課によると、かつては登山客を乗せるバス専用道だったが、1964年に富士山有料道路（富士スバルライン）が開通したことで廃線となった。富士吉田西ロータリークラブが創立20周年記念事業として遊歩道としての活用を市に提案し、2005年10月に遊歩道として開通した。

ただ、あまり利用されていないのが現状という。遊歩道整備に携わる一般社団法人「カノエサル」理事の勝俣俊二さん（42）によると、遊歩道を歩く人は夏山シーズンでも1日1グループ程度にとどまる。4月27日には吉田口登山道の保全や観光での活用方法を考える「富士山をつなぐ会」のメンバーら約30人が参加し、遊歩道を歩きながら整備の在り方について意見を交わした。専門家からは、100年ほど前までは手入れがされた草原地帯だったことや、多様な生態系が存在していることなどの説明があった。雨水で地面が削られて歩きにくい場所があることも確認した。



竹川 元久、小林 諒一  
鈴木 なつ美、望月 優真

カノエサルによると、整備の方向性を考えた上で、まずは遊歩道の草刈りや倒木撤去などに着手する方針。勝俣さんは「さまざまな富士山の楽しみ方を知ってもらえるよう、地元で活動している人々の意見をしっかりと聞いて合意形成を図りたい」と話している。

(2026年6月6日付 山梨日日新聞 14面)

問1 吉田口遊歩道の区間は、どこからどこまでの道のことですか。

.....から.....まで

問2 この遊歩道は、かつてどのように使われていた道ですか。

.....

問3 現在の遊歩道は、夏山シーズンでも1日1グループ程度しか利用されていません。今回の整備以外に、遊歩道を利用してもらうには、なにをすれば良いと、あなたは考えますか。

.....

.....